

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度第3回岐阜県立郡上特別支援学校学校運営協議会
- 2 開催日時 令和4年2月16日(水) 10:00～11:45
- 3 開催場所 岐阜県立郡上特別支援学校 大和校舎体育館  
※オンライン開催のため、委員はリモートで出席
- 4 参加者

会 長	板倉 寿明	愛知淑徳大学講師
副会長	水野 正文	郡上大和総合開発株式会社代表取締役社長
委 員	池戸 節子	社会福祉法人郡上市社会福祉協議会在宅福祉課職員
	石田 紀美江	元郡上市役所職員
	玉山 隆三	ダイアトップ株式会社代表取締役社長
	筒井 美希代	卒業生保護者代表
	野田 美鈴	社会福祉法人ぶなの木福祉会理事長
	増田 雅幸	郡上市大和町栗巣地域住民
	山田 泰子	郡上市八幡町那比地域住民
	長谷川 清貴	PTA会長
オブザーバー	森藤 文男	郡上市議会副議長
学 校	高井 繁喜	校長
	吉村 智典	副校長
	安江 寿明	事務部長
	廣瀬 雅行	教頭
	遠藤 衣代	小中学部主事
	林 哲司	高等部主事
	金田 麻巳子	教務部長(教務主任)
	横関 麻衣子	健康教育部長(保健主事)
	山下 真弥	生徒指導部長(生徒指導主事)
	深澤 文貴	進路指導部長(進路指導主事)
	磯野 沙織	地域連携部長(特別支援教育コーディネーター)

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 令和3年度の自己評価・学校関係者評価について

○第2回学校運営協議会の学校評価の議題で、委員の方から頂いた貴重なご意見や助言をもとに、後期の学校運営を進めてきた。その取組の成果と今後の課題について説明する。

※特に質疑なし。

(2) 学校行事への地域の人材活用について

○郡上市の子供たちが学ぶ郡上特別支援学校について

○「情報発信」「ネットワークづくり」「人材活用」をキーワードに、将来、地域に貢献できる人材を育てるためにどのように進めてゆけばよいかについて

意見1：郡上特別支援学校は、地域との距離が近いことが特色である。開校以来、学校近隣のキーパーソンが学校と地域とを結び付けきた成果である。新校舎整備を見据え、個人という「点」ではなくネットワークという「面」にしておくには、学校運営協議会がキーとなる。郡上の子供を郡上で育てる学校づくりを進めることが運営協議会の役割で、やがては街づくりにつながる。

意見2：情報発信の仕方としては、フリーペーパー「G u j o + (プラス)」を活用する。定期的に情報を掲載、その中で人材募集やイベント発信をする。また、スキー研修であれば、私もスキー指導員資格があり、社員の協力も得られる。郡上市のスキー関連団体につないで連携することも可能である。

意見3：ぶなの木学園では、個から出発して、グループにしていくという方法で地域とつながっている。得意なことがある個人と接点を作り、丁寧につながっていくことで「面」を作ることが大切であると考え。各地域にあるサロン、文化活動等を行っている団体とつながる方法がある。

意見4：(株)大和総合開発では、人と人が出会う交流の場を作ることを目指している。場を作り、いろいろな年代が集まり触れ合えるようにする。わが社では、子供たちに体験を提供できる。また、各地区の自治会、文化協会、消防団などともパイプがあり、運営協議会委員として接着剤として役割を果たせると考える。企業の存在意義として、地域に貢献する使命がある。人材、技、場、財を是非支援したい。

意見5：社会福祉協議会は、各地域に地域福祉担当がおり、サポーター養成講座等により人材育成を行っている。その方たちが力を発揮できる場として特別支援学校を紹介することで、学校と地域の方を結び付けていきたい。

意見6：那比校舎で、万が一災害が起きたときに一緒に過ごすことになる地域の方との共同の防災学習をやっているという話を聞いた。防災を共に学び、共に食事をするなど、共に活動する場をもちたい。学校の中に入るといことは、地域にとっては壁がある。集まりやすい場を設定するとよい。

意見7：これまで学校は、栗巣地区、元大和東小校区という近隣の地域と共に学んできた。これからは、大和町全体、郡上市全体に広がる。人材活用では、市内のシニアクラブや図書館、サークルとつながるとよい。米作りは、新校舎整備用地の大間見にも協力していただければよい。

意見8：新校舎が整備されても、学校教育では、どんな大人にしたいのか考えて指導してほしい。自分に何ができるのか、自分のため、人のため、地域のためという視点をもった大人になれるようにしてほしい。

意見9：どう生きるかを子供にどう伝えるかは、親としてこれからも考えて続けていきたい。開校当時から、地域の方に支えられた家庭的な雰囲気の学校であった。婦人防火クラブや読み聞かせサークル等、つながれるところが多くあり、若い世代の方たちは発信の場を求めている。学校が、子供たちにとっても地域にとっても広く活躍できる場であってほしい。

意見10：地域の方が学校に入ることはとても良いことである。一方で、防犯上の心配もあり、対策が必要である。情報発信の方法としては、チラシの配布が効果的だと考える。卒業生の就労先など、関係各所にチラシを設置してもらおう方法もよいと思う。

意見 11：地域の方にとっては、市役所は敷居が高いと感じていると思う。地域に出向き、地域の方と顔見知りになることで、敷居を感じないようにし安心してもらおう。個と個の付き合いから広がっていく。学校の児童生徒も職員も、地域に出向むいていくとよい。

オブザーバーより

郡上市の小学校21校、中学校8校のすべてに、学校運営協議会が設置され、コミュニティスクールの取組が始まった。新しい学校と郡上市の地域の一体感と連携のために、自分自身も是非、自治会、公民館、保護者、民生委員等、得意分野を生かした人材活用を進め、学校運営協議会をとおして連携、協調していきたいと考えている。今後の郡上特別支援学校の活躍と発展に寄与したいと考えるとともに、この学校運営協議会に大いに期待したい。

## 6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会は、オンラインでの開催ではあったが、キーワード「情報発信」「ネットワークづくり」「人材活用」について、委員の忌憚のないご意見をいただくことができた。

会長からは、将来の郡上特別支援学校を考えると、個人ではなく面で連携したネットワークづくりが求められる。そのために、学校運営協議会がキーとなって、郡上の子供を郡上で育てる学校づくりを進めることが地域の発展や街づくりにつながる。新校舎整備と併せ、この学校運営協議会が地域に果たす役割は大きいと考えられる。共生社会の実現に向けて、来年度当初から、学校及び委員が動き出せる準備をお願いしたいという提案が出され、了承された。

今回の第3回学校運営協議会での意見を、来年度の学校運営「情報発信」「ネットワークづくり」「人材活用」につなげていく。